

腫瘍随伴症候群としての発熱を伴った びまん型肝未分化癌の一剖検例

福田 祥¹⁾ 二村 聡²⁾ 山内 涼¹⁾
吉村 雅代³⁾ 川島 素子¹⁾ 福田 洋美¹⁾
高田 和英¹⁾ 田中 崇¹⁾ 森原 大輔¹⁾
横山 圭二¹⁾ 竹山 康章¹⁾ 釈迦堂 敏¹⁾
鍋島 一樹³⁾ 向坂彰太郎⁴⁾ 平井 郁仁¹⁾

¹⁾ 福岡大学医学部 消化器内科学講座

²⁾ 福岡大学筑紫病院 病理部・病理診断科

³⁾ 福岡大学医学部 病理学講座

⁴⁾ 福岡大学医学部 総合医学研究センター

要旨：59歳男性。肝障害と発熱の治療のために当科に入院した。腹部CTで肝内びまん性低吸収域を認め、多発性肝膿瘍として加療を行われたが、多臓器不全、播種性血管内凝固症候群を合併しており、第3病日に死亡した。剖検所見では、肝全体および他臓器に腫瘍が多発していた。免疫組織学的染色では、腫瘍細胞は明らかな分化傾向を示さず、肝原発未分化癌と診断した。肝未分化癌はしばしば腫瘍随伴症候群としての腫瘍熱で診断される。特異的な画像所見はないとされるが、肝内に乏血性腫瘍の形態を呈することが多く、このような画像的特徴と相まって、肝膿瘍との鑑別が困難となりうる。肝未分化癌はきわめて稀な疾患であるが、予後不良で急激な経過をたどることもあるため、肝腫瘍を有する発熱患者では、肝未分化癌も念頭に、注意して診療にあたる必要がある。

キーワード：未分化癌，発熱，腫瘍随伴症候群，肝膿瘍